

第 22 回土木工学に関する KKCNN シンポジウム報告

代表者： 白土博通

開催日時： 2009 年 10 月 31 日- 11 月 2 日

開催場所： タイ・チェンマイ・The Imperial Mae Ping Hotel (タイ)

主催： 京都大学 (Kyoto University, KU)、韓国科学技術院 (Korea Advanced Institute of Science and Technology, KAIST)、国立台湾大学 (National Taiwan University, NTU)、シンガポール国立大学 (National University of Singapore, NUS)、チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University, CU)

共催： 京都大学グローバル COE プログラム「アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点」

招聘者： 家村浩和名誉教授

参加人数： 約 150 名

主な参加者： 京都大学、韓国科学技術院、国立台湾大学、シンガポール国立大学、チュラロンコン大学の教員、研究者、大学院生など

2009 年 10 月 31 日から 11 月 2 日の 3 日間、タイ・チェンマイ・The Imperial Mae Ping Hotel において標記シンポジウムが行われた。このシンポジウムは京都大学 (Kyoto University, KU)、韓国科学技術院 (Korea Advanced Institute of Science and Technology, KAIST)、国立台湾大学 (National Taiwan University, NTU)、シンガポール国立大学 (National University of Singapore, NUS)、チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University, CU) の 5 カ国の大学・研究機関が 1988 年より土木工学に関する研究交流を目的に毎年開催するものである。発足当初は、京都大学と韓国科学技術院の 2 機関であったが、その後 3 機関が参画し、上記 5 機関の共催による国際シンポジウム (KKCNN Symposium on Civil Engineering) を毎年実施するに至っている。シンポジウムでは、各機関の研究者、学生による研究発表を通じて相互の学術交流を深めると共に、大学院生や若手研究者を対象に優秀な研究発表者に対する表彰を継続的に実施し、研究の奨励に務めている。

第 22 回シンポジウムでは、基調講演 2 編および一般講演 113 編 (構造工学 73 編、土質・岩盤工学 28 編、維持管理工学 (Sustainability Engineering) 12 編) の発表があり、うち本学からの講演は基調講演 1 編 (家村浩和名誉教授)、構造工学 16 編、土質・岩盤工学 6 編、維持管理工学 1 編であった。参加者は約 150 名であり、本学からは約 40 名であった。Fig. 1 に参加者に配布されたプロシーディングの表紙を示す。

初日午前中に基調講演が行われ、午後は一般講演の後、Sustainability and Civil Engineering Education に関するグループディスカッションが行われ、各大学の教育に関する新たな取り組みが紹介された。本学からは杉浦教授により GCOE の展開と G30 (国際コース) 設置の紹介があった。シンガポール国立大学からは新専攻設置と新たな教育プログラムの紹介、KAIST からは設計思想をひとつの学問

分野と捉え、実習を含む新教育プログラムとして実施中である旨紹介があった。このほか国立台湾大学、チュラロンコン大学からもそれぞれ進行中あるいは計画中の取り組みが紹介され、各大学共に従来の教育スタイルにとられない新たな方向性を見出しつつある印象を受けた。2 日目は全日一般講演が続いた、なお一般講演は 4 会場に分かれるパラレルセッションで行われた。各セッションでは、研究発表の後、熱心な質疑が続いた。優れた研究と発表が評価された学生には KKCNN シンポジウムより賞状と賞金が贈られた。

最終日は Technical tour が実施された。夜は Loy Kratong と呼ばれる祭が行われ、多くの人がチェンマイの街にあふれた。あちこちから無数の灯籠が上空高く上がり、夜空に映えた。

最後に、本シンポジウムには GCOE プログラムより助成を頂くとともに、本学学生の一部に渡航費の援助を頂いた。ここに記して謝意を表す。

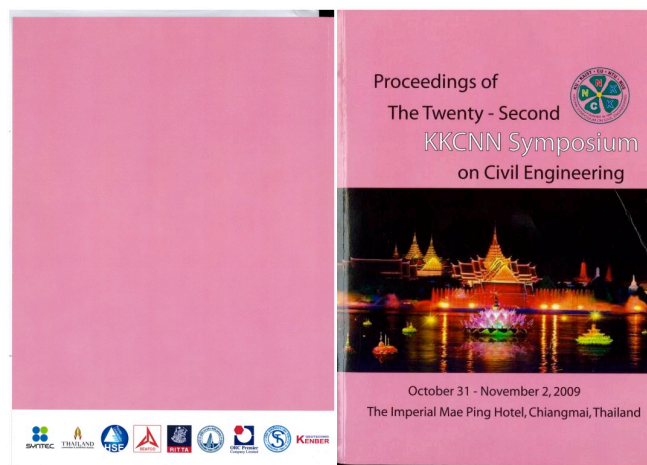


Fig. 1 The 22nd KKCNN Symposium Proceedings